

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871100263
法人名	社会福祉法人北条福祉協会
事業所名	グループホームなぎさ
所在地	松山市北条辻1170-22
自己評価作成日	平成21年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 1 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東には雄姿な高縄山、西には中島や興後島をはじめとする瀬戸内海の島々を望むことができる風光明媚な場所に位置しています。窓を開くと、潮騒が聞こえ、ほのかに漂ってくる潮の香りは心を癒してくれます。入居者が楽しみにしている食事について、魚は鮮魚店、肉は精肉店、野菜は八百屋から地元の新鮮な食材を取り入れ、利用者の意見を聞きながら、いつもおいしいと言われる食事作りを目指しています。行事を通じて地域との関係を深めながら、「穏やかな環境作り」を進め、家庭的な安全・安心のある楽しい日々を過ごしています。健康管理や病院受診について、家族との連絡を密にし、家族の意向に添って受診をしています。また、重度化に対応するために、早期から終末期のあり方について方針を共有しています。恒例の野菜作りは利用者の生きがいに通じ、今年はスイカが収穫できました。家族会との交流行事(芋炊き会、忘年会)は利用者の大きな楽しみの行事として定着しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に加入し、また地域のいきいきサロンに参加したり、近くのグループホームに夕涼みに出かけたり、高校生の体験学習を受け入れるなど、地域との交流を大切にしている。定期的に運営推進会議を開催し、家族代表、地域代表等、各立場からの出席を得て、忌憚ない具体的な要望や声を聞き取り、ケアに活かしている。協力医療機関から医師が毎日ホームに訪れて利用者の健康状態を把握しており、健康管理面で安心感がある。重度化及び終末期ケアに関しては、本人及び家族の希望がある場合は家族、医師、看護師、職員が密に連携を取りながらケアに当たっている。季節ごとに花見、菊花展、花火大会などに出かけて楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームなぎさ
(ユニット名)	せとユニット
記入者(管理者)	
氏名	梶山洋三
評価完了日	平成21年 12月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 管理者と職員が理念を共有し、日々実践に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 「地域との交流」「穏やかな環境と安全・安心の確保」を理念として掲げ、ユニットごとに掲示して全職員が共有し、実践につなげている。地域との関わりを大切に、温かみのある生活が送れるよう心がけている。</p>	地域との関係性や連携を大切にしたい理念について、来訪者や地域にも啓発するために、玄関への掲示についても検討を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地区サロンとの交流会や地区行事への参加を通じて、地域住民との交流に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入している。地域のいきいきサロンで地域住民とふれあったり、七夕祭りに地域住民と一緒に短冊を書いたり、近くのグループホームに夕涼みに出かけたり、神輿や亥の子が訪ねてくれるなど、地域とのつながりを持ちながら暮らせるよう支援している。また、高校生の体験学習やボランティアも受け入れている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地区サロンとの交流会で介護教室を開催し、介護技術について理解を深めてもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議での意見をサービス向上に役立ててい る。	
			(外部評価) 家族、地域代表、市担当者などの出席を得て、2か月 ごとに開催している。出席者から意見や要望を出して もらい、対応が可能な要望についてはすぐにケアに活 かすようにしている。議事録は詳細に分かりやすく記 録している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 市担当者が運営推進会議に参加することで、情報交換 等をし、サービス向上に繋げている。	
			(外部評価) 市担当者がホームを訪れた際等に、必要な情報交換を 行っている。管理者が市担当を訪ねて様々な助言や情 報を得ることもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について勉強会を行い、身体拘束をしないケ アに取り組んでいる。	
			(外部評価) 職員は身体的・精神的拘束の弊害をよく理解してお り、自由でのびやかな生活ができるよう見守ってい る。外出傾向のある利用者に対しては、同行するなど して見守っているが、やむを得ない場合には、安全性 を優先して一時的に玄関を施錠することがある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止について、全職員が意識を持ち、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日常生活自立支援事業や成年後見制度について、勉強会を実施し、職員の意識付けをしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に重要事項説明書、利用契約書を十分に説明し、了解をもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の意見、要望、苦情を聞き、運営に活かしている。	
			(外部評価) 季節ごとに発行しているホーム便りで、利用者の生活の様子やホームの状況などを家族に伝え、その際に家族からも要望や意見を聞き取るよう努めている。定期的に家族会を開催し、家族からの声を大切にしている。遠隔地の家族の要望は手紙で聞き取っている。ホーム内及び外部の相談機関を明記し、説明している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 年2回人事考課を実施し、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。 (外部評価) 法人代表が利用者の主治医であるケースが多く、診察のためにホームに来所した際に、利用者や職員の要望を伝えている。また、年2回は職員の意見を文章化して法人に伝える機会を設けており、意見や要望がケアに活かされるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は利用者の状態把握のため、頻りに現場に来ている。また、職員からの報告や意見を受け、職場環境の向上に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内外の研修参加を設けるとともに職員会で研修報告をし、職員の介護知識・技術向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者が松山市北条サービス会議に参加し、ネットワーク作りや勉強会などを通して、サービスの質の向上に努めている。また、研修会で他施設の職員と意見交換などを通じ、業務遂行に役立っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居事前調査を行い、本人の状態把握をするとともに本人の不安や希望を聞くことで、本人との信頼関係を築くことに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族からの相談を真摯に受け止め、問題解決に向けてお互いに協力しあえるような関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族への支援を十分に職員が把握し、その時に応じた柔軟な対応をするよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人が安全、安心して過ごせるように、精神的支えとなるように信頼関係を築く努力をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人と家族との関係が円滑に行くよう配慮しながら、本人を支えていくよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の馴染みの人や物、場所を把握し、外出時に回想できるような支援に努めている。 (外部評価) 家族、親戚、知人などの来訪は多く、利用者は喜んでいる。馴染みの理容師が来訪した際にも、楽しく過ごしている。馴染みの場所（コスモス畑、つつじ園、菊花展など）へも車で出かけ、楽しい時間を過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆と一緒に行事に行ったり、外出したりして、共に過ごせる時間を持ち、支えあっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も施設との交流会などを通じて関わりを持つことを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中での関わりを通じて、本人の意向や希望を聞き、把握に努め、本人本位に活かしている。 (外部評価) 家族から本人の生活習慣や好みを聞き取っており、買い物の希望などの意向がある場合は希望に添うよう努めている。ほとんどの利用者は外出することを楽しみにしており、職員は希望に添えるよう最大の努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし方を聞き取り、把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人の馴染みの人や物、場所を把握し、外出時に回想できるような支援に努めている。心身状態や生活のリズムを把握し、その日の流れの中で、出来る事や役割を支援し、現状を把握している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアカンファレンスに家族の参加をお願いし、本人、家族の意見、希望を取り入れ、介護計画を作成している。欠席の場合は、事前に家族の要望を聞いている。 (外部評価) 新しい入居者に対しては家族から生活の様子や身体状況等を聞き取り、看護師、管理者も加わって暫定的な介護計画を作成してケアに当たっている。入居後、機能チェック表を参考に、アセスメント、モニタリングを重ね、全職員で話し合っ介護計画を作成している。おおむね3か月毎に見直しを行い、家族にも同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別ファイルを作成し、記録し共有することで、介護計画に活かしている。申し送りや休憩時間に職員間で気づきを話し合い、情報を常に共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況により柔軟に対応できるよう支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に民生委員、地域代表、地域包括支援センター職員が参加し、情報交換や協力関係を強化する努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の希望を取り入れ、協力病院や他の医療機 関で適切な医療が受けられるようにしている。	
			(外部評価) 協力医療機関を設けているが、本人及び家族の希望に より、入居前からのかかりつけ医を継続して受診する ことも可能としている。協力医療機関の医師が毎日 ホームを訪れ、利用者の健康状態を把握している。ま た、歯科とも協力関係を結んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職員を配置し、24時間体制で常に看護職と介護 職が連携がとりながら健康管理や医療支援をしてい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 協力医療機関と連携し、情報交換しながら、早期退院 に向けて相談に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合について、早くから家族と話しあい、 方針を共有している。	
			(外部評価) 入居時に家族と話し合い、ホームとしての方針を伝 え、家族の意思を尊重しながら対応に当たっている。 家族の希望がある場合はホームとして家族、医師、看 護師、職員が連携を密に取りながら終末期ケアに当 たっている。	より理解しやすいマニュアルを作成し、身体・精神両 面に関する学習を定期的実施することが望まれる。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護師が24時間体制で待機しており、すぐ連絡・指示を受けられるようになっている。月に1回の介護教室や職員会の勉強会により、事故発生時の対応ができるよう訓練を行なっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を実施し、職員の防災意識を高めるとともに、近隣や地区の応援が得られるよう、避難訓練を通じて協力してもらっている。 (外部評価) 運営推進会議で出席者から災害時の対応について意見を伺い、協力依頼を行っている。年2回訓練を実施しているが、うち1回は消防署の協力を得て夜間想定での訓練としている。ガス器具は使用していないが、電気火災が発生しないよう全職員が注意を払っている。	さらに分かりやすいマニュアルを作成し、マニュアルにそった訓練を地域の自主防災組織の協力も得て、地域住民参加のもとで実施することが望まれる。また、立地の面から津波等水害に関するマニュアルも作成し、定期的に訓練を実施することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の立場に立ったケアをすることを最重点とし、個人情報の扱いについて十分注意している。 (外部評価) 職員は個人情報の大切さを十分認識している。利用者を人生の先輩として尊敬し、プライドを傷つけないよう優しく声をかけ、心をこめてケアに当たっている。ホーム便りの顔写真掲載に関しては、利用者及び家族の承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の希望を聞き、本人の選択肢を増やし、自己決定しやすいよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の状態を考慮しながら、本人の希望を最優先して、本人のペースを大事にしながら支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎日衣服が同じにならないよう身だしなみに注意をし、その人らしい身だしなみができるよう化粧などができる支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の希望に沿うような食事作りをし、職員と一緒に食事をしている。食事の下準備や食器拭きも職員と一緒にやっている。	
			(外部評価) 基本的な献立は事前に立てているが、その日の利用者の好みや希望に合わせて変更したり、外食を楽しむこともある。家庭的な雰囲気の中で、食事中は楽しく話はずんでいる。介助の必要な利用者の側には職員が座り、優しくゆったりと支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事、水分摂取量を記録し、状態に応じた支援をしている。食事前の口腔体操をし、食欲を高め、食事が楽しんでもらえるように言葉かけをしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後、就寝前の歯磨きや食前の口腔体操を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) プライバシーに配慮しつつ、排尿・排便チェック表を使用し、利用者に合わせた排泄が出来るよう支援している。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握しており、さりげなく声をかけてトイレ誘導するなど、個別の支援に努めている。極力おむつの使用を減らし、トイレでの排泄ができるよう、排泄の自立に向けた支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を使用し、毎日のリハビリや散歩を通して身体を動かし、便秘予防に努めている。排便の情報を職員間で共有している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望を聞きながら、タイミングに合わせて、気持ちよく入浴ができるよう支援している。	
			(外部評価) 基本的に週に3回は入浴できるよう支援しているが、希望があれば毎日でも入浴できるようにしている。羞恥心や恐怖心を与えないよう、気分がほぐれた時点で入浴してもらうなど工夫している。状態に応じてリフト浴での対応も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣を把握し、体調を考慮し、安心して休息したり、眠れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作成し、服薬について全職員が理解すると共に誤薬防止のため二人の職員による服薬チェックを実施している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴に応じて、得意分野を見つけ出し、それを活かしたり役割を持ってもらうように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出時に本人の希望を聞き、偏りなく外出ができるよう支援している。	
			(外部評価) 基本的に毎日、敷地内の安全な場所を散歩している。季節に応じて近くの公園、海岸、コスモス畑、菊花展、花火大会などに出かけて楽しんでいる。法人内の他事業所を訪れることもある。時折、外食も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員は本人がお金を持つことの大切さを理解し、買い物時は本人にお金を支払ってもらい、社会性の維持に努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人に本人から電話したり、手紙を出す事ができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に利用者の馴染みのものを取り入れ、共用空間は利用者が心地良く過ごせるようにしている。また、穏やかに過ごせるように空間作りを提供している。	
			(外部評価) 居間、食堂は広く、自然の光を採り入れており、明るく、心和む雰囲気がある。玄関フロアには利用者の習字や職員の写真を飾り、またホーム内には絵画が掛けられている。床暖房の設備があり、空調は適切に管理され、トイレ、浴室、台所等も清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間を広くとることで、一人ひとりがゆったり過ごしたり、利用者同士が会話できる工夫をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅から使い慣れた物を持ち込んだり、家族との思い出の物を持ち込んだりして、家族との絆を大切に過ごせるよう工夫している。	
			(外部評価) 居室は広く、洗面台、隣室と共有できるよう工夫されているトイレ、エアコンが設置されている。整理ダンス、ベッドはホームの備え付けであるが、馴染みの調度品を持ち込み、思い出の写真や作品を飾り、自分の部屋らしく、居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者のわかる力を職員は大切に考え、自立した生活ができるよう工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871100263
法人名	社会福祉法人北条福祉協会
事業所名	グループホームなぎさ
所在地	松山市北条辻1170-22
自己評価作成日	平成21年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 1 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

東には雄姿な高縄山、西には中島や興後島をはじめとする瀬戸内海の島々を望むことができる風光明媚な場所に位置しています。窓を開くと、潮騒が聞こえ、ほのかに漂ってくる潮の香りは心を癒してくれます。入居者が楽しみにしている食事について、魚は鮮魚店、肉は精肉店、野菜は八百屋から地元の新鮮な食材を取り入れ、利用者の意見を聞きながら、いつもおいしいと言われる食事作りを目指しています。行事を通じて地域との関係を深めながら、「穏やかな環境作り」を進め、家庭的な安全・安心のある楽しい日々を過ごしています。健康管理や病院受診について、家族との連絡を密にし、家族の意向に添って受診をしています。また、重度化に対応するために、早期から終末期のあり方について方針を共有しています。恒例の野菜作りは利用者の生きがいに通じ、今年はスイカが収穫できました。家族会との交流行事(芋炊き会、忘年会)は利用者の大きな楽しみの行事として定着しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に加入し、また地域のいきいきサロンに参加したり、近くのグループホームに夕涼みに出かけたり、高校生の体験学習を受け入れるなど、地域との交流を大切にしている。定期的に運営推進会議を開催し、家族代表、地域代表等、各立場からの出席を得て、忌憚ない具体的な要望や声を聞き取り、ケアに活かしている。協力医療機関から医師が毎日ホームに訪れて利用者の健康状態を把握しており、健康管理面で安心感がある。重度化及び終末期ケアに関しては、本人及び家族の希望がある場合は家族、医師、看護師、職員が密に連携を取りながらケアに当たっている。季節ごとに花見、菊花展、花火大会などに出かけて楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームなぎさ

(ユニット名) たかなわユニット

記入者(管理者)

氏名 梶山洋三

評価完了日 平成21年12月10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 管理者と職員が理念を共有し、日々実践に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 「地域との交流」「穏やかな環境と安全・安心の確保」を理念として掲げ、ユニットごとに掲示して全職員が共有し、実践につなげている。地域との関わりを大切に、温かみのある生活が送れるよう心がけている。</p>	地域との関係性や連携を大切にしたい理念について、来訪者や地域にも啓発するために、玄関への掲示についても検討を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地区サロンとの交流会や地区行事への参加を通じて、地域住民との交流に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入している。地域のいきいきサロンで地域住民とふれあったり、七夕祭りに地域住民と一緒に短冊を書いたり、近くのグループホームに夕涼みに出かけたり、神輿や亥の子が訪ねてくれるなど、地域とのつながりを持ちながら暮らせるよう支援している。また、高校生の体験学習やボランティアも受け入れている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地区サロンとの交流会で介護教室を開催し、介護技術について理解を深めてもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議での意見をサービス向上に役立てている。	
			(外部評価) 家族、地域代表、市担当者などの出席を得て、2か月ごとに開催している。出席者から意見や要望を出してもらい、対応が可能な要望についてはすぐにケアに活かすようにしている。議事録は詳細に分かりやすく記録している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市担当者が運営推進会議に参加することで、情報交換等をし、サービス向上に繋げている。	
			(外部評価) 市担当者がホームを訪れた際等に、必要な情報交換を行っている。管理者が市担当を訪ねて様々な助言や情報を得ることもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) 職員は身体的・精神的拘束の弊害をよく理解しており、自由でのびやかな生活ができるよう見守っている。外出傾向のある利用者に対しては、同行するなどして見守っているが、やむを得ない場合には、安全性を優先して一時的に玄関を施錠することがある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止について、全職員が意識を持ち、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日常生活自立支援事業や成年後見制度について、勉強会を実施し、職員の意識付けをしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に重要事項説明書、利用契約書を十分に説明し、了解をもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の意見、要望、苦情を聞き、運営に活かしている。 (外部評価) 季節ごとに発行しているホーム便りで、利用者の生活の様子やホームの状況などを家族に伝え、その際に家族からも要望や意見を聞き取るよう努めている。定期的に家族会を開催し、家族からの声を大切にしている。遠隔地の家族の要望は手紙で聞き取っている。ホーム内及び外部の相談機関を明記し、説明している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 年2回人事考課を実施し、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。 (外部評価) 法人代表が利用者の主治医であるケースが多く、診察のためにホームに来所した際に、利用者や職員の要望を伝えている。また、年2回は職員の意見を文章化して法人に伝える機会を設けており、意見や要望がケアに活かされるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は利用者の状態把握のため、頻回に現場に来ている。また、職員からの報告や意見を受け、職場環境の向上に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内外の研修参加を設けるとともに職員会で研修報告をし、職員の介護知識・技術向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者が松山市北条サービス会議に参加し、ネットワーク作りや勉強会などを通して、サービスの質の向上に努めている。また、研修会で他施設の職員と意見交換などを通じ、業務遂行に役立っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居事前調査を行い、本人の状態把握をするとともに本人の不安や希望を聞くことで、本人との信頼関係を築くことに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族からの相談を真摯に受け止め、問題解決に向けてお互いに協力しあえるような関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族への支援を十分に職員が把握し、その時に応じた柔軟な対応をするよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人が安全、安心して過ごせるように、精神的支えとなるように信頼関係を築く努力をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人と家族との関係が円滑に行くよう配慮しながら、本人を支えていくよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の馴染みの人や物、場所を把握し、外出時に回想できるような支援に努めている。	
			(外部評価) 家族、親戚、知人などの来訪は多く、利用者は喜んでいる。馴染みの理容師が来訪した際にも、楽しく過ごしている。馴染みの場所（コスモス畑、つつじ園、菊花展など）へも車で出かけ、楽しい時間を過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆と一緒に行事に行ったり、外出したりして、共に過ごせる時間をもち、支えあっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も施設との交流会などを通じて関わりを持つことを大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中での関わりを通じて、本人の意向や希望を聞き、把握に努め、本人本位に活かしている。	
			(外部評価) 家族から本人の生活習慣や好みを聞き取っており、買い物の希望などの意向がある場合は希望に添うよう努めている。ほとんどの利用者は外出することを楽しみにしており、職員は希望に添えるよう最大の努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族から生活歴や馴染みの暮らし方を聞き取り、把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人の馴染みの人や物、場所を把握し、外出時に回想できるような支援に努めている。心身状態や生活のリズムを把握し、その日の流れの中で、出来る事や役割を支援し、現状を把握している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアカンファレンスに家族の参加をお願いし、本人、家族の意見、希望を取り入れ、介護計画を作成している。欠席の場合は、事前に家族の要望を聞いている。 (外部評価) 新しい入居者に対しては家族から生活の様子や身体状況等を聞き取り、看護師、管理者も加わって暫定的な介護計画を作成してケアに当たっている。入居後、機能チェック表を参考に、アセスメント、モニタリングを重ね、全職員で話し合っ介護計画を作成している。おおむね3か月毎に見直しを行い、家族にも同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別ファイルを作成し、記録し共有することで、介護計画に活かしている。申し送りや休憩時間に職員間で気づきを話し合い、情報を常に共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況により柔軟に対応できるよう支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に民生委員、地域代表、地域包括支援センター職員が参加し、情報交換や協力関係を強化する努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の希望を取り入れ、協力病院や他の医療機 関で適切な医療が受けられるようにしている。	
			(外部評価) 協力医療機関を設けているが、本人及び家族の希望に より、入居前からのかかりつけ医を継続して受診する ことも可能としている。協力医療機関の医師が毎日 ホームを訪れ、利用者の健康状態を把握している。ま た、歯科とも協力関係を結んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職員を配置し、24時間体制で常に看護職と介護 職が連携がとりながら健康管理や医療支援をしてい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	(自己評価) 協力医療機関と連携し、情報交換しながら、早期退院 に向けて相談に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合について、早くから家族と話しあい、 方針を共有している。	
			(外部評価) 入居時に家族と話し合い、ホームとしての方針を伝 え、家族の意思を尊重しながら対応に当たっている。 家族の希望がある場合はホームとして家族、医師、看 護師、職員が連携を密に取りながら終末期ケアに当 たっている。	より理解しやすいマニュアルを作成し、身体・精神両 面に関する学習を定期的実施することが望まれる。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護師が24時間体制で待機しており、すぐ連絡・指示を受けられるようになっている。月に1回の介護教室や職員会の勉強会により、事故発生時の対応ができるよう訓練を行なっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練を実施し、職員の防災意識を高めるとともに、近隣や地区の応援が得られるよう、避難訓練を通じて協力してもらっている。 (外部評価) 運営推進会議で出席者から災害時の対応について意見を伺い、協力依頼を行っている。年2回訓練を実施しているが、うち1回は消防署の協力を得て夜間想定での訓練としている。ガス器具は使用していないが、電気火災が発生しないよう全職員が注意を払っている。	さらに分かりやすいマニュアルを作成し、マニュアルにそった訓練を地域の自主防災組織の協力も得て、地域住民参加のもとで実施することが望まれる。また、立地の面から津波等水害に関するマニュアルも作成し、定期的に訓練を実施することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の立場に立ったケアをすることを最重点とし、個人情報の扱いについて十分注意している。 (外部評価) 職員は個人情報の大切さを十分認識している。利用者を人生の先輩として尊敬し、プライドを傷つけないよう優しく声をかけ、心をこめてケアに当たっている。ホーム便りの顔写真掲載に関しては、利用者及び家族の承諾を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の希望を聞き、本人の選択肢を増やし、自己決定しやすいよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の状態を考慮しながら、本人の希望を最優先して、本人のペースを大事にしながら支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毎日衣服が同じにならないよう身だしなみに注意をし、その人らしい身だしなみができるよう化粧などができる支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の希望に沿うような食事作りをし、職員と一緒に食事をしている。食事の下準備や食器拭きも職員と一緒にやっている。	
			(外部評価) 基本的な献立は事前に立てているが、その日の利用者の好みや希望に合わせて変更したり、外食を楽しむこともある。家庭的な雰囲気の中で、食事中は楽しく話はずんでいる。介助の必要な利用者の側には職員が座り、優しくゆったりと支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事、水分摂取量を記録し、状態に応じた支援をしている。食事前の口腔体操をし、食欲を高め、食事が楽しんでいただけるように言葉かけをしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後、就寝前の歯磨きや食前の口腔体操を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) プライバシーに配慮しつつ、排尿・排便チェック表を使用し、利用者に合わせた排泄が出来るよう支援している。	
			(外部評価) 一人ひとりの排泄パターンを把握しており、さりげなく声をかけてトイレ誘導するなど、個別の支援に努めている。極力おむつの使用を減らし、トイレでの排泄ができるよう、排泄の自立に向けた支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を使用し、毎日のリハビリや散歩を通して身体を動かし、便秘予防に努めている。排便の情報を職員間で共有している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望を聞きながら、タイミングに合わせて、気持ちよく入浴ができるよう支援している。	
			(外部評価) 基本的に週に3回は入浴できるよう支援しているが、希望があれば毎日でも入浴できるようにしている。羞恥心や恐怖心を与えないよう、気分がほぐれた時点で入浴してもらうなど工夫している。状態に応じてリフト浴での対応も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの生活習慣を把握し、体調を考慮し、安心して休息したり、眠れるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを作成し、服薬について全職員が理解すると共に誤薬防止のため二人の職員による服薬チェックを実施している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴に応じて、得意分野を見つけ出し、それを活かしたり役割を持ってもらうように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出時に本人の希望を聞き、偏りなく外出ができるよう支援している。	
			(外部評価) 基本的に毎日、敷地内の安全な場所を散歩している。季節に応じて近くの公園、海岸、コスモス畑、菊花展、花火大会などに出かけて楽しんでいる。法人内の他事業所を訪れることもある。時折、外食も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員は本人がお金を持つことの大切さを理解し、買い物時は本人にお金を支払ってもらい、社会性の維持に努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族や知人に本人から電話したり、手紙を出す事ができるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室に利用者の馴染みのものを取り入れ、共用空間は利用者が心地良く過ごせるようにしている。また、穏やかに過ごせるように空間作りを提供している。</p> <p>(外部評価) 居間、食堂は広く、自然の光を採り入れており、明るく、心和む雰囲気がある。玄関フロアには利用者の習字や職員の写真を飾り、またホーム内には絵画が掛けられている。床暖房の設備があり、空調は適切に管理され、トイレ、浴室、台所等も清潔である。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 共用空間を広くとることで、一人ひとりがゆったり過ごしたり、利用者同士が会話できる工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自宅から使い慣れた物を持ち込んだり、家族との思い出の物を持ち込んだりして、家族との絆を大切に過ごせるよう工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室は広く、洗面台、隣室と共有できるよう工夫されているトイレ、エアコンが設置されている。整理ダンス、ベッドはホームの備え付けであるが、馴染みの調度品を持ち込み、思い出の写真や作品を飾り、自分の部屋らしく、居心地よく暮らせるよう工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者のわかる力を職員は大切に考え、自立した生活ができるよう工夫している。</p>	